

公益社団法人 信和会 看護奨学生だより

2024年5月号

公益社団法人信和会 理事長 小林 充



元気ですか。正月早々、能登で大きな地震がありました。動いていなかった原発が間一髪大事故に至らず済みました。ロシアのウクライナへの侵略は続き、ガザでは虐殺ともいえる状況が起こっています。この挨拶を書いている今もひどい暑さで、地球温暖化は待たなしの気がします。この時代に、医療とケアに携わっていく者同士、何ができるかどうできるか一緒に学び考えていきませんか。無駄な体験など一つもない、遊びも躓きも全部肥やしに変えて、共に成長していきましょう。

公益社団法人信和会 看護部長 鴨川 聡子



今年の冬は、暖冬でしたが3月に入り寒い日が続きました。そして、4月に入り、一気に春が訪れ、早くも若葉の季節が来ようとしています。新入生の方々もそろそろ新しい環境に慣れてきた頃ではないでしょうか。

京都の街中は、どこもかしこも国内外からの来訪者でとても混雑している状況です。ニュースやSNSでも京都の交通機関の混雑や渋滞、道路上のゴミ問題などが「オーバーツーリズム＝観光公害」と問題視されています。市民生活への影響も大きくなってきています。皆さんも学生生活に何らかの影響を受けているのではないのでしょうか。看護師は、患者・利用者の生活にも目を向けて看護を実践していかなければなりません。看護学生であるからこそ、アンテナを高くして地域で起きていることも目を向けて考えていきましょう。

京都民医連あすかい病院 看護部長 征矢 陽子



新入生のみなさん、入学おめでとうございます。在校生の皆さんは、看護師になる準備が整ってきているのでしょうか。COVID-19感染症が5類化され日常生活が戻ってきました。対策は簡潔化していますが、まだまだ医療介護の現場ではウイルスと共存しながら、通常の医療や介護の提供ができるように踏ん張っています。たくさん学ぶことがありますが、それぞれの根拠を理解して実践力をつけていってくださいね。そして、日本・世界ではいのちや生活が脅かされる社会保障の改悪や争い事が起きています。正しい情報を得て、人が人を傷つけることのない社会、笑い声が聞こえてくる生活のために、医療介護従事者として出来る事探しをしてほしいと思います。苦手な事にも向き合える力も備えてみてください。きっと、その向こうに光が見えるはず。

京都民医連あすかい病院 副看護部長 山際 正樹



新たな学期のスタートは、どうですか？私は看護学生の担当になり、早4年が経過し、学生だったら卒業できる長さを経験しています。担当になった時から、新型コロナが流行し、オンライン系の対応ばかりしてきました。ただ、昨年のコロナ5類移行に伴い、医療系の領域に関しても、対面企画が多くなってきています。当法人に関しても、オンラインのメリットを活かしつつ、新たな対面企画なども検討していきたいと思っています。1年間、皆さんが着実に看護師に近づいていけるような企画を随時案内していきますので、出来るだけ参加して下さいね。7月の奨学生のつどいでお会いできることを楽しみにしています。

あすかい病院ポジティブコンテスト

去年開催されたポジティブコンテストが今年も開催されました。ポジティブコンテストは院内の各職場からエントリーが募集され、そこから厳選された優秀な取り組みが表彰されます。

募集内容は①仕事、環境改善の取り組み②業務の効率化③コスト・労力削減④サービス向上⑤学習・教育制度の改善⑥円滑なコミュニケーションの充実⑦エラーやインシデントへの先行的対策事例の7項目です。今回も看護師のいる職場の取り組みをご紹介します。



外来看護では、患者さんからの「外来は分かりにくい」「車椅子が通りにくい」「待ち時間が長い」「座る場所がない」などの苦情と、現場で働くスタッフの「色々なところを整理整頓したい」「業務もしやすくしたい」「患者さんにも質の高い看護がしたい」、そんな思いを寄せ集め「みんなにやさしい病院づくり」が取り組まれました。

グループを作って担当を分け、常に**患者さんの目線**で車椅子に実際に乗って通りやすさをチェックして、椅子の配置を変更したり、カウンタの表示などを見やすくしたり、処置室の中も**5S活動**も取り入れて、見違えるほど**きれいに整備**されました。

患者さんだけではなくそこで**働くスタッフのことも**考え、電話の取りやすい位置などにも配慮した改善がされています。お金を掛けない季節感のあるデコレーションなども工夫されました。外来ではスタッフ全員で**主体的**に取り組める業務改善活動をこれからも実践し「みんなにやさしい病院づくり」を目指していくと報告されました。

透析センターの師長さんからは、**全盲の透析患者さんの支援**について報告されました。20代で失明し全盲になられた方で、基本的に生活は自立されているのですが、週3回病院に通院しなければなりません。そこで北区にあるライトハウス（視力障害者の施設）を訪問し、受け入れに向けての**様々なアドバイス**をもらいました。

例えばタクシーで来られますが運転手さんによっては、病院到着時に停車する位置が違くと患者さんが混乱するので、写真を見せて**いつも同じ位置に停車**してもらうなど工夫をしたり、透析室に入る前に上着を脱ぎますが、ハンガーに掛かった自分の服が分からなくなるため、**ハンガーを工夫**して分かるように細工したり、また透析から帰宅する際に、エレベーターではなく階段の方向にいくと転落してしまうために**チェーンを付けて対策**するなどきめ細かな対応がされました。

患者さんの**出来るだけ自分の事は自分でやりたい**という思いを、みんなで話し合い、考えながら取り組まれてきた内容が報告されました。



感謝の木

あすかい病院では昨年の10月から、『感謝の木』を始めました。職員から患者さん、職員同士、家族や友人といった親しい人に、感謝の気持ちを紙の木の葉っぱに書いて伝える取り組みです。

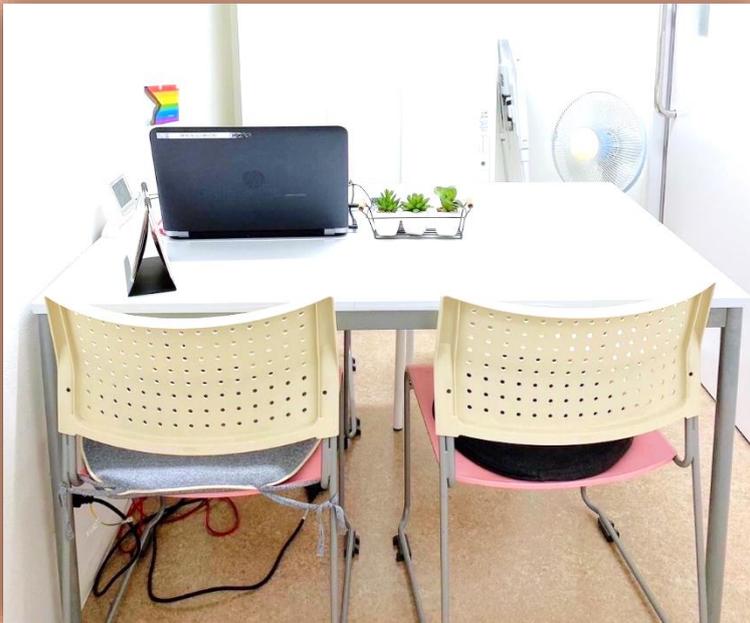
その『感謝の木』がみんなからの書き込みで緑でいっぱいになりました。この取り組みは、日頃なかなか伝えられない感謝の思いを伝え合うとてもいい機会になりました。

感謝の気持ちは、表現することでストレスが強くなりモチベーションがアップすると言われています。日々のささやかな出来事であっても、幸福感や喜びを感じられるようになり、楽観的に前向きになることができます。それは自分の成長にもつながります。

職場の上司や同僚、友人、家族など人間関係で悩んでいる人も多いと思います。感謝の気持ちを伝えることで良好な人間関係を作り上げるための助けにもなります。好意的に接することで相手にもそれが伝わり、相手からも同様のコミュニケーションが取れるようになります。奨学生の皆さんも機会があれば是非まわりに感謝の気持ちを伝えてみてください。



あすかい病院 地域医療連携室の紹介



地域医療連携室は、主に地域の医療機関の窓口として検査や入院の受け入れを行なう前方連携と、入院・外来患者さんの生活や福祉に関わる後方連携で構成され、患者さんの支援にあっています。

前方連携には看護師長と事務、後方連携にはソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)が配置されています。

病気になったり怪我をしたりすると様々な困りごとや心配ごとが起こってきます。「突然の入院で医療費や生活費が心配」「仕事どうしよう」「家で介護できるだろうか」等々、患者さんやご家族の思いを聴きながら、少しでも困りごとが解決できるようお手伝いをしています。

あすかい病院 キラッと看護の紹介

地域包括ケア病棟でのキラッと看護（ケア）をご紹介します！

日中デイルームで過ごされる時間が多い患者さんがおられました。しかし、デイルームで過ごされている際、短時間の間に何度も「トイレに行きたい」との訴えがありました。

患者さんは、歩行能力が保たれていたのですが、トイレの場所が分からなくなるため、その都度、看護師や看護補助者がトイレにお連れしていました。

ただ、他のナースコール対応をしている時や、夜勤時のスタッフ体制が少ない時は、タイムリーにトイレにお連れすることができず、お互いにストレスとなっていました。



そこである看護師が、トイレの場所が分かるように、デイルームからトイレまでの道のりを、床に赤色テープを貼りわかるようにしてみました。

すると、トイレに行きたい際、一人で行くことができるようになりました。

ちょっとしたアイデアで、両者ともに心が穏やかになるとともに、患者さんの自立も促すことができ、良い看護ができました。

透析センターの紹介



初めまして。京都民医連あすかい病院透析センターの看護師長です。透析とは腎臓のかわりをする治療です。腎臓は身体の中の毒素や余分な水分を除去する重要な働きをしていますが、何らかの病気によって役割が果たせなくなった時、選択される治療の一つです。

透析は雨の日も雪の日も正月も、災害の時さえ命ある間はずっと必要です。そして、看護師は透析患者さんの身体的・精神的ケアをしています。

透析中の観察や様々な苦痛の緩和、患者さん・家族に対する生活の支援や指導です。患者さんが快適に心地よく過ごせるよう、思いに寄り添い細やかなケアを目指して奮闘しています。やりがいのある職場です、興味を持って頂けたらと思います。

